

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100604		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームあおばの杜～カメラア～	ユニット名	わかば
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡一丁目3番19号		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍であっても、ご利用者の権利を尊び個人への配慮を尽くしながら、ご本人があたり前の生活を送れるよう支援しております。ご家族との繋がりが途絶えないよう、Zoom(テレビ電話)面会の他、新型コロナウイルスの流行状況に合わせてながら、来所時に抗原検査の実施にご協力いただき陰性を確認して面会していただいております。ご本人のやりたいこと、ご本人の得意なこと、好きなことが継続して行えるようご本人の能力の発揮支援にも力を入れております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 11 月 29 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台地下鉄線北四番丁駅から西へ1Kmほどの住宅街の中、木造2階建ての「グループホームあおばの杜～カメラア～」がある。開設から5年目となるホームは、職員間における情報の共有や相互に力を補い合うなどのチームケアを見ることができる。前年にホームが掲げた目標達成計画の「地域との協力体制を確立する」は、令和5年までを期限とし取り組みを継続している。職員は、「どうしてもっと良いケアができるか」を考え、「本人の権利を奪うことにならないか」を自問しつつ、「入居者の権利を守る」ことを意識してケアにあたっている。「本人本位」や「本人の思いに寄り添う」ことを大事にしたケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあおばの杜～カメラ～)「ユニット名 わかば」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもと、ご利用者一人一人のその人らしさ、個性、権利を尊び、お互いに助け合い、楽しい日々を送ることを実践しております。今までの自宅での生活をそのままホームでもできるように。また、ご利用者、ご家族、スタッフ共に地域に根付くような笑顔に満ちた家を目指しています。ご本人との対話を大切に、ご本人が選択し決定していけるよう、スタッフ一人一人が説明・提案し、ご本人が主体的に決めることを応援しています。	法人理念の「自律と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を統一した理念として継続している。入居者の起床や朝食、入浴など本人ペースを大切にしている。法人主催で「理念が実践できているか」の研修をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	これまで、地域の体操教室・認知症カフェへの参加や近隣の幼稚園との交流、運営推進会議を開き町内会長に参加いただいていたが、コロナウイルス感染防止対策の為、R2年3月より地域交流が実施できていません。	町内会に加入している。近所の人から桜の木をもらい、ホームの中に飾って季節を感じた。コロナ禍の状況を見ながら、交流できる日を持ち望んでいるところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで夏祭りやクリスマス会に、ご家族や地域の方々にも参加いただいていたが、コロナウイルス感染防止対策の為、R2年4月以降、実践できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで2ヶ月に1回、地域包括支援センターの職員、町内会長、ご家族、ご利用者に参加いただき開催していましたが、コロナウイルス感染防止対策の為、R2年4月以降、事業所での開催は休止しています。委員の皆様には、当日使用予定だった資料を郵送し、会議の内容をご確認いただいております。	郵送する資料には、入居者の現況データやイベントなど生活の様子を写真で報告している。資料には毎回、コロナマニュアルの「水際対策のための参考指針」を添付している。メンバーから意見の返信はもらっていない。	運営推進会議の目的でもある「意見をサービス向上に活かす」ことを実践するために、メンバーから意見をもらう手段を講じていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症カフェへの運営ボランティアとして参加、協力をさせていただいていたが、コロナ禍の現在は休止中となっています。毎月、事業所で作成した新聞をご家族だけでなく地域包括支援センターへも郵送し、日々の活動報告も行っています。また、不定期ですがZoom(テレビ電話)で開催している八幡連携の会(地域ケア会議)に参加し、協力関係の維持に努めています。	地域ケア会議にオンラインで参加し、コロナ対策についてなど話し合った。市から、ホームの入居状況について確認の電話をもらうことがある。市主催の研修などの情報は入っていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人理念に基づき身体拘束は行いません。夜間19時以降は防犯の為、玄関を施錠していますが、日中は施錠しておりません。身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、職員一人一人の日頃のケアについて振り返りを行うとともに、身体拘束に該当する行為への理解を深め防止に努めています。	「身体拘束廃止委員会」では、事例を上げて対策を話し合っている。会の始めに前回の振り返りとして、対策の効果を議題に載せている。今後についての処し方も共有している。事例の分析と原因、対策のサイクルを重ねることで拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、法人全体での研修会への参加だけでなく、事業所内でも研修を行い、理解を深める場を設けています。虐待につながるような不適切ケアをしていないか、ミーティング時や、グレーゾーンカード、インシデントカードを用いて振り返りを行っています。法人としての取り組みも速やかに現場のスタッフへ共有、伝達しケアの質の向上に努めています。	インシデントカードを提出する取り組みをしている。入居者の同意無しに介助することやトイレの戸の締め忘れなどについて、職員の都合でなく本人の立場で考え、寄り添う事を意識するよう話し合い、共有した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の関わりから汲み取ったご利用者の意向を後見人の方へ伝え、ご利用者の尊厳が守られた関係にあるように努めています。また、ご利用者、後見人の方、事業所間の関係が密であるように、こまめに電話にて連絡、報告することを心がけております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項について十分な説明を行っています。疑問点等を確認しながら説明を行い、理解、同意を得た上でサービスを利用できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の関わりを通してご利用者との対話からご本人の想いや希望を伺い、実現に向けて応援していくことを大切にしています。現在のコロナ禍では、周辺地域の感染状況によって面会制限も行ってありますが、ご家族等へのこまめな電話連絡、事業所新聞やZoom面会、ご利用者の状態によっては面会制限も個別に配慮して対応しています。ご本人・ご家族からの声を申し送りなどを通じて職員間で共有し、日頃のケアに落とし込む仕組みを作っています。	家族との面会は事前予約のうえ、抗原検査をして行っている。来訪の際に、「訪問マッサージを受けさせたい」や「訪問歯科を利用したい」などの要望を聞き、医師に相談しながら対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案をミーティングを通じてスタッフ全員で共有できるように取り組んでいます。管理者は年2回スタッフと定期面談を行うだけでなく、随時個別の面談も実施の機会を持ち、意見、提案を全体へ共有し、反映するようにしております。法人としても仕事と職場のアンケートを実施しており、法人内の全スタッフからの意見を共有し反映させています。	職員アンケートの設問は「言葉使いは適切か」など職場での振り返りを求めたものになっている。会議ではケアについての意見が多く、より良い介助方法について成功談などを出し合い、互いの参考にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	管理者が現場に入る機会を持ち、職員個々の努力や実務を理解しようと心掛けています。また、現場に入ること、職員個々に心情や負担に配慮しながら実践的なアドバイスを送るよう心がけています。法人の仕組みとしてチャレンジ制度を設け、自ら取り組んで行ける制度があります。(ミズクチャレンジ、サクシードチャレンジ)また人事考課については評価基準書を使用し、自己評価をしてから上司が評価する仕組みとなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の感染状況に合わせながら対面・非対面の形で法人内の研修(よろず懇話会・フォローアップ研修)に参加の他、運営上必要な研修の開催並びに事業所の課題に合わせた独自の研修を実施し、看護師とも連携を図って季節毎での発生しやすい感染症に関して学ぶ機会を作っています。感染防止に配慮しながら認知症実務者研修・実践者研修といった外部の参加への推進も図っています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の現在はZoomを用いて、各スタッフは法人主催のよろず懇話会、フォローアップ研修、新卒者研修等経験年数に応じた研修への参加、管理者・役職者は不定期に開催される八幡連携の会や、役職者会議に出席し、他事業所との情報交換や意見交換の場を設けています。PPE着脱訓練やコホート訓練を法人全体やエリア単位で行い、コロナウイルス感染症への正しい理解と備えを行ってまい	よろず懇話会で、認知症の本人から「何もできないと思わないで」などの話を聞き、認知症を深く理解できた。外部研修で得た資料を持ち帰り、職員全員で知識を深めている。法人の言語聴覚士から助言をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、施設見学や実態調査からご本人とお話する機会を作り、困っていること、不安なこと、要望を伺っています。また、日々の関わりのなかでのご本人の声・想いに寄り添えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、施設見学や実態調査からご家族ともお話する機会を多く作り、困っていること、不安なこと、要望を伺っています。グループホームの特色や事業所独自の取り組み等を伝えながら、ご家族・ご利用者のニーズに応えられるように対話を重ね、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前任のケアマネジャーからの情報や、前施設からの情報、ご本人、ご家族からの要望をもとに必要なケアを見極め、ニーズに合わせた提案を行うよう努めています。また法人内の看護部長と連携し医療面での必要なケアについても理解を深めた上での支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	法人理念に基づき、様々な生活の場面でご利用者との視点を大切に、得意なこと、出来ることを一緒に行っていただきながら、共に生活していくパートナーとして互いに上手く頼り合いながら生活しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性、つながりを大切にし、Zoom面会、こまめな電話連絡による情報共有、周辺地域の感染状況を踏まえながら面会制限の緩和、抗原検査を用いた面会など、ご本人の権利を尊び、家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の現在は、抗原検査を実施し陰性であることを確認していただいたご家族や馴染みの方との面会を可能としております。周辺地域の感染状況に合わせた感染対策を講じて、通い慣れた病院・美容室、屋外への外出ドライブを実施しています。	来訪できない家族と電話で話せるよう支援した。孫が面会に来ることもある。入居前から通っていた教室へ知人と行く入居者がいた。花見や紅葉見物、買い物する所は、入居者にとって馴染みの場所を選んでいく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍の現在はユニット間の交流を制限しており、エアロゾルの発生が予見される活動の制限を行ってはいませんが、家事活動や調理が得意な方、身体が動かすことが好きな方は個別体操や階段昇降・散歩、園芸などその方の趣味・嗜好を考慮し日々のなかでご利用者同士が関わるができるような活動の場を設けています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院後、再入居が難しくなった方であってもご家族の意向を確認し、法人内外の相談員・ケアマネへの情報提供や法人内の他サービスのご紹介したりしています。お亡くなりになられた方のお葬式への参加したり、法人社是にある自尊好縁を大切にしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に事前に聞き取りを行う他、日々の関わりの中で聞かれた不満や意向などをケアに反映、ご家族とも情報交換を行っています。ご利用者の趣味・嗜好を普段の食事メニューやイベント食へも反映しています。	家族に会いたい気持ちを聞き、面会に繋げたり、「寿司が食べたい」の要望をメニューに入れるなど、その人の思いを支援をしている。「歩けなくなったら」などの不安を把握し、下肢筋力維持を介護計画に入れた。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ています他、ご家族の協力を得て、趣味・好きな服装などバックグラウンドアセスメント用紙に記入いただき把握に努めています。他施設を利用されていた方に関しては担当ケアマネジャーとの連携を図り、各種書式・サマリーやフェスシートから生活歴の把握に努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタル測定から健康状態の把握、普段の関わりの中で表情や言動を観察し、随時情報共有を行い現状の把握に努めています。また、医療職との連携も図っています。ご本人の好きなこと、得意なことを発揮をしていただくことを大切にしながら、共に過ごす生活場面の中で、状態観察に努めています。	
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の関わりから聞き取ったご本人からの要望やご家族の要望を踏まえた上で、ケア意見書を通してユニットスタッフが関わりやケアから感じ取った情報をチームで共有し、ご本人の能力・障がいに合わせて必要な介護や配慮について検討しています。	「出来ることは自分で」の本人意向に対し、「介入が過度にならぬよう」との方針を盛り込んだ。食事時のむせ込みに気付き、看護師や栄養士に相談するなど、状態変化に合わせて随時計画の見直しを行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実施した際のご本人の様子や言動を記載しています。チームで情報を共有し、ご本人の現状を正しく理解するため、ケアの工夫や配慮の見直しを行うために、不安や心配のお話があった際の詳細も記載しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態に応じて、訪問歯科・訪問理美容の利用や通い慣れた美容室への外出支援を行っています。嚥下機能の低下が見受けられた場合には、法人内の言語聴覚士に嚥下評価を依頼し、食形態の見直しや福祉用具の利用について業者と連携する等、多職種と連携し協働の視点を大切にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍ということで、休止中の活動も多く地域との交流はできていないが、町内会へは継続して加入していますので、状況が好転し次第、グループホームの地域における役割・機能を理解し、地域資源の活用に努めていきたいです。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人・ご家族の希望を伺い、かかりつけ医を希望の方は継続して診ていただけるよう努めています。特に希望が聞かれない方や体調を崩しやすい方、ご家族が遠方にお住まいのために適宜の受診同行が基本的に難しい方については、往診医の利用について提案しています。	殆どの入居者が法人医療からの移行で継続しており、オンライン受診も可能である。日常的な健康管理は、看護職員が行い、点滴等の処置については訪問看護師が行っている。眼科等の専門医受診の支援もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が勤務しており、医療的な処置に関して情報共有を行い、医療面でのフォロー体制の構築しております。夜間は法人内医療介護部長へ報連相を行い、急変時等、対応について指示を受けています。有症状者については毎日、法人内の報告フォーマットを通して管理行い、早期対応から集団感染の発生予防に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェイスシートの提出やサマリーの活用など所定のフォーマットを通して情報共有に努めています。必要な場合はケアプランの提出なども行っています。個人情報保護の視点やコロナ禍ということで院内の面会制限状況に合わせて、ご家族との情報共有からタイムリーなケアマネジメントを行えるよう努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化した場合についての説明を行い、ご本人、ご家族の希望を伺っています。また、終末期が近づいてきた場合も再度、ご家族への説明、意向を伺っています。ACPを通して入居されてからもご本人・ご家族に対して終末期の希望について随時お伺いし、ご本人の想いを一番に考えた終末期を迎えることが出来るよう話し合いを行っています。	「看取りに関する指針」を文書化し、本人の意思を尊重しながら統合的な援助を行うことを表している。終末期に際しては、職員間で「どうして欲しいか」などを話し合い、日常の延長を意識している。「メモリアルカンファレンス」を行い、今後に向けた情報共有をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変・事故発生時の対応についての研修を行い、実践力を養っており、実際に発生した場合には、対応した内容の振り返りを行うように努めています。また、昼夜共に管理者が事業所に不在であっても24時間体制で管理者・エリアマネージャーや法人内医療介護部長へ対応について電話相談や報告を行える体制を整えています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しており、避難訓練や緊急連絡網の確認など行っています。備蓄品・避難経路の情報共有に努め、消防への連絡場所にはその時に慌てることのないよう、伝え方のマニュアルを掲示しています。コロナ禍ということで、ユニット間交流制限等もあり地域との協力体制は築けておりませんが、状況が落ち着き次第、改善に取り組んでいきます。	地震による火災発生と通常火災について、避難訓練を行った。運営推進会議の報告で「地域住民の協力が必要」と述べている。職員から「2階から降ろすのに不安」との声があった。夜間想定訓練は来月に予定している。	訓練の実施後には実践記録と同様に、反省についても記録に残し、次回の訓練に役立てていただきたい。夜間想定訓練を予定通り実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お声がけする際の、尊厳をもった関わりは勿論のこと、記録する際の言葉の選び方、スタッフ同士の申し送りの表現にも気を配り、お一人お一人を尊重し、不適切な記載表現は行っていません。	入居者の好きな事や出来る事を把握し、得意な裁縫を活かしてボタン付けをしてもらうなど、「本人本位」「思いに寄り添う」ことを大事にしている。断定した誘い方ではなく「～はどうでしょう」など、声掛けにも配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事にかかるソースやドレッシングの選択、水分提供時にはメニュー表を用いて飲みたいものの意向を伺ったり、入浴時の着替える衣服をご本人と準備するなど、ご本人の権理を理解し、ご本人が選択できるように提案の仕方などを個別に配慮することを大切にしています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者毎に、起床時間や就寝時間、食べ物の好みも異なるため、可能な限り要望に沿った対応を行っています。入浴する時間、頻度などもご要望に合わせ、毎日入浴されている方もいます。余暇時間の過ごし方も得意なこと、好きなことを踏まえながら提案し、ご本人が決めることを大切にしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選べる方は、ご本人に選んでいただき、障がいによって自ら選ぶことが難しい方へは、いくつか候補を準備し、なるべくご本人が決定することを後押しできるよう提案の仕方も個別に配慮を行っています。	
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みを伺いながら、献立を作成しています。作成時以外でも、食べたいものの要望があった時は食べたいものを召し上がっていただけるように献立変更をしています。食事の準備・後片付けもご利用者の好きなこと、得意なことを踏まえた上で能力を発揮していただけるよう配慮を行っています。	入居者の要望には、ハンバーグや刺身などがある。敬老会に仕出しを取ったり、栗御飯や果物で季節を感じたり、芋煮会では下拵えを一緒にするなど楽しんでいる。糖分や水分制限など医師の指示に対応している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事・水分摂取量の観察、管理だけでなく月2回の体重測定から変動の観察を行い、体重減少が月5%を上回った場合には、所定のフォーマットで法人への医療職への相談を行っています。主治医との連携から栄養補助食品の積極的な活用も行っていきます。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で行える方はお声掛けを行い、介助が必要な方は声掛けと見守りを行い、必要時、介助を行っています。専門職による対応を希望される方、必要性の高い方については個別に提案を行い、訪問歯科による口腔ケア、診察、治療を行っています。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方は、ご本人の排泄のタイミングを把握し、パットへの失敗がないようにトイレ案内に努めています。また、失敗があった際は清潔保持のため陰部洗浄を行っています。自力による立ち上がりや立位保持が不十分な方であっても安易にオムツ着用とはせず、トイレへ案内し二人介助による排泄支援を行っています。	誘導が必要な人への声掛けは、食事の前後に行っている。座位が可能な人は、トイレの利用を優先することを大事にしている。「失敗＝オムツではない」ことを職員間で共有し、現在オムツ使用の人はいない。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を1日のなかで摂取できるようにしており、排便状況をチェック表に記入し、看護師・スタッフが確認、情報共有できるように努めています。車椅子はあくまでも移動の補助員として認識し、ホールでは普通の椅子への乗り移りを支援することで、身体を動かす機会を確保し、主治医など医療職との連携から排便コントロールに努めています。	
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	同性介助を基本としながら、1人1人の希望に沿った(入浴の間隔・入浴時間)入浴サービスを提供しています。毎日入浴される方もいらっしゃいます。気分が乗らない時は時間をおいてのお声がけをするなど、無理強いはせずに入浴日を柔軟に変更しています。	入浴前に着替えの服を一緒に用意している。入浴時には皮膚の観察を行い、疾病や虐待の気付きを意識するようにしている。プライバシーに配慮し、浴室前で待機するなどその人に合わせた支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた就寝の声掛けを行っています。眠れない方がいらっしゃる時は、ホールへ案内し、スタッフと談笑したり、好きなテレビ番組やDVDを視聴していただきながら、臨機応変なケアをしています。眠れないことで困っているのはご本人であることを認識し、不安や心配、苛々から睡眠障害となっている場合には医療職との連携や、当法人内診療所へのセカンドオピニオンへの案内も行っています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で情報共有できるように薬表のファイルを作成し、個人の内服薬を確認できるようにしています。服薬介助を行う際は必ずダブルチェックを行い、事故防止に努めています。処方薬の理解を深めるため、介護職員も処方薬のセットや錠剤数の確認、日付の記載などを看護師だけに任せずに行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花を育てることが好きな方には、縁側でプランターにて花を育てていただいたり、裁縫が得意な方には、衣類のほつれや取れたボタンの修繕をお願いしたりとその方の好きなこと、得意なことを発揮して生活できるよう配慮しています。家事・炊事においてもできること、好きなことを踏まえた上で、スタッフと一緒にしています。	
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍ということで、スーパーへの買い物やレストランへの外出など人混みへの外出は原則制限していますが、近隣への散歩やドライブイベントは、屋外での感染リスクが低いことから実施については制限していません。天候の良い日には園芸センターやあやめ園、お花見など四季を感じられるような外出イベントの実施に努めています。	天気の良い日は、下肢筋力維持になるよう敷地内を歩いている。ドライブイベントは、花見や紅葉の見学であったり、欲しいものがあるれば買い物に行くなどの外出になっている。園芸の好きな人に合わせて、プランターに花の植栽をするなど屋外活動をしている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安易にお預かりせず、ご本人のできることを奪うことが無いように、少額をご本人で管理されている方もいます。障がいによって管理が難しい方であっても手元にあるだけで安心される方もおりますので、ご家族の理解を得た上で支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方がおり、自由に使用していただいています。携帯電話の有無に関わらず、ご利用者よりご家族への連絡希望があった際は、その都度ご家族へ連絡を行っています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にご利用者との思い出の写真を飾ったり、四季を感じれるような設えをご利用者・スタッフと共同で作成し掲示しています。コロナ禍の現在はCO2モニターと各廊下にサーキュレーターを設置、常時換気を行っていますので、寒暖差を感じることはないよう冷暖房の使用、室温管理に努めています。また、有事に備えゾーニングのテープを床に貼り区分けしていますが、気にされる方には都度説明を行っています。	ホールの壁には、夏祭りの焼きそば作りの様子を写真にして掲示したり、皆で切り貼りしたり折り紙などで作った落ち葉の作品を飾っている。十五夜には、窓際にススキや秋の果物を供えた。廊下との寒暖差や換気に留意して、居室の戸に隙間を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と同じ食席で過ごしていただいたり、ソファを置き、それぞれお一人や少数で過ごせるような空間を作っています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、不特定多数の方が高頻度で接触する箇所については、消毒を行っています。ご本人が趣味で行っていたもの、使い慣れた好きな物を自室に飾っていただいたり、仏壇、冷蔵庫、テレビなどご本人が過ごしやすいよう思い思いの品を持参いただいています。また、食事の際にはご自宅で使用されていたお箸・お茶碗・コップを使っていただくようにしています。	各居室には、エアコンやベッド、クローゼット、洗面台、ナースコールが備えてある。家族の写真や飾り、新聞を読む、自分で掃除をするなど、本人なりの部屋作りをしている。転倒予防にセンサーの利用がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレに名札を目印として設置し、見当識障害がある方でも安心して暮らせるように配慮しています。廊下へはなるべく障害物を置かないことで安全な歩行が行えるよう環境調整を行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495100604		
法人名	株式会社ナラティブ		
事業所名	グループホームあおばの杜～カメラ～	ユニット名	このは
所在地	宮城県仙台市青葉区八幡一丁目3番19号		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍であっても、ご利用者の権利を尊び個人への配慮を尽くしながら、ご本人があたり前の生活を送れるよう支援しております。ご家族との繋がりが途絶えないよう、Zoom(テレビ電話)面会の他、新型コロナウイルスの流行状況に合わせてながら、来所時に抗原検査の実施にご協力いただき陰性を確認して面会していただいております。ご本人のやりたいこと、ご本人の得意なこと、好きなことが継続して行えるようご本人の能力の発揮支援にも力を入れております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4 年 11 月 29 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台地下鉄線北四番丁駅から西へ1Kmほどの住宅街の中、木造2階建ての「グループホームあおばの杜～カメラ～」がある。開設から5年目となるホームは、職員間における情報の共有や相互に力を補い合うなどのチームケアを見ることができる。前年にホームが掲げた目標達成計画の「地域との協力体制を確立する」は、令和5年までを期限とし取り組みを継続している。職員は、「どうしてもっと良いケアができるか」を考え、「本人の権利を奪うことにならないか」を自問しつつ、「入居者の権利を守る」ことを意識してケアにあたっている。「本人本位」や「本人の思いに寄り添う」ことを大事にしたケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームあおばの杜～カメラア～)「ユニット名 このは」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもと、ご利用者一人一人のその人らしさ、個性、権理を尊び、お互いに助け合い、楽しい日々を送ることを実践しております。今までの自宅での生活をそのままホームでもできるような。また、ご利用者、ご家族、スタッフ共に地域に根付くような笑顔に満ちた家を目指しています。ご本人との対話を大切にし、ご本人が選択し決定していけるよう、スタッフ一人一人が説明・提案し、ご本人が主体的に決めることを応援しています。	法人理念の「自律と共生の権理を尊ぶナラティブな関わり」を統一した理念として継続している。入居者の起床や朝食、入浴など本人ペースを大切にしている。法人主催で「理念が実践できているか」の研修をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	これまで、地域の体操教室・認知症カフェへの参加や近隣の幼稚園との交流、運営推進会議を開き町内会長に参加いただいていたが、コロナウイルス感染防止対策の為、R2年3月より地域交流が実施できていません。	町内会に加入している。近所の人から桜の木をもらい、ホームの中に飾って季節を感じた。コロナ禍の状況を見ながら、交流できる日を持ち望んでいるところである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまで夏祭りやクリスマス会に地域の方々にも参加いただいていたが、コロナウイルス感染防止対策の為、R2年4月以降、実践できていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで2ヶ月に1回、地域包括支援センターの職員、町内会長、ご家族、ご利用者に参加いただき開催していましたが、コロナウイルス感染防止対策の為、R2年4月以降、事業所での開催は休止しています。委員の皆様には、当日使用予定だった資料を郵送し、会議の内容をご確認いただいております。	郵送する資料には、入居者の現況データやイベントなど生活の様子を写真で報告している。資料には毎回、コロナマニュアルの「水際対策のための参考指針」を添付している。メンバーから意見の返信はもらっていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症カフェへの運営ボランティアとして参加、協力をさせていただいていたが、コロナ禍の現在は休止中となっています。毎月、事業所で作成した新聞をご家族だけでなく地域包括支援センターへも郵送し、日々の活動報告も行っていきます。また、不定期ですがZoom(テレビ電話)で開催している八幡連携の会(地域ケア会議)に参加し、協力関係の維持に努めています。	地域ケア会議にオンラインで参加し、コロナ対策についてなど話し合った。市から、ホームの入居状況について確認の電話をもらうことがある。市主催の研修などの情報は入っていない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人理念に基づき身体拘束は行いません。夜間19時以降は防犯の為、玄関を施錠していますが、日中は施錠しておりません。また、スタッフ全員に毎月グレーゾーンカードを配布・提出してもらい、身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、グレーゾーンカードの内容をもとに日頃のケアについて振り返りを行い、身体拘束に該当する行為への理解を深め、防止に努めています。	「身体拘束廃止委員会」では、事例を上げて対策を話し合っている。会の始めに前回の振り返りとして、対策の効果を議題に載せている。今後についての処し方も共有している。事例の分析と原因、対策のサイクルを重ねることで拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、法人全体での研修会への参加だけでなく、事業所内でも研修を行い、理解を深める場を設けています。虐待につながるような不適切ケアをしていないか、ミーティング時や、グレーゾーンカード、インシデントカードを用いて振り返りを行っています。法人としての取り組みも速やかに現場のスタッフへ共有、伝達ケアの質の向上に努めています。	インシデントカードを提出する取り組みをしている。入居者の同意無しに介助することやトイレの戸の締め忘れなどについて、職員の都合でなく本人の立場で考え、寄り添う事を意識するよう話し合い、共有した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人があるご利用者がいるため、成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けています。また、ご利用者、後見人の方、事業所間の関係が密であるように、こまめに電話にて連絡、報告することを心がけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、ご本人・ご家族へ契約書や重要事項について十分な説明を行っています。疑問点等を確認しながら説明を行い、理解、同意を得た上でサービスを利用できるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご家族との信頼関係構築に努め、気兼ねなく意見が言えるような関わりを目指しています。意見等があった際にはミーティングの議題として挙げ、話し合いを行っています。また、玄関先に意見箱を設置し、直接、言いづらいことでも意見を言えるよう配慮しています。法人としても仕事と職場のアンケートを実施しており、法人内の全スタッフからの意見を共有し、反映させています。	家族との面会は事前予約のうえ、抗原検査をして行っている。来訪の際に、「訪問マッサージを受けさせたい」や「訪問歯科を利用したい」などの要望を聞き、医師に相談しながら対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見や提案をミーティングを通じてスタッフ全員で共有できるように取り組んでいます。管理者は年2回スタッフと定期面談を行うだけでなく、随時個別の面談も実施の機会を持ち、意見、提案を全体へ共有し、反映するようにしております。法人としても仕事と職場のアンケートを実施しており、法人内の全スタッフからの意見を共有し反映させています。	職員アンケートの設問は「言葉使いは適切か」など職場での振り返りを求めたものになっている。会議ではケアについての意見が多く、より良い介助方法について成功談などを出し合い、互いの参考にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入る機会を持ち、職員個々の努力や実務を理解しようと心掛けています。また、現場に入ること、職員個々に心情や負担に配慮しながら実践的なアドバイスを送るよう心がけています。法人の仕組みとしてチャレンジ制度を設け、自ら取り組んで行ける制度があります。(ミズクチャレンジ、サクシードチャレンジ)また人事考課については評価基準書を使用し、自己評価をしてから上司が評価する仕組みとなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域の感染状況に合わせて対面・非対面の形で法人内の研修(よろず懇話会・フォローアップ研修)に参加の他、運営上必要な研修の開催並びに事業所の課題に合わせた独自の研修を実施し、看護師とも連携を図って季節毎での発生しやすい感染症に関して学ぶ機会を作っています。感染防止に配慮しながら認知症実務者研修・実践者研修といった外部の参加への推進も図っています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため現在はZoom会議を用いて、管理者・役職者は不定期に開催される八幡連携の会、役職者会議やエリア毎の役職者会議に出席し、他事業所との情報交換や意見交換の場を設けています。他スタッフはフォローアップ研修や新卒者研修など経験年数に応じた研修へ参加しています。今年からリクルーターの取り組みが行われ、各事業所に配属された職員が活動に取り組んでいます。	よろず懇話会で、認知症の本人から「何もできないと思わないで」などの話を聞き、認知症を深く理解できた。外部研修で得た資料を持ち帰り、職員全員で知識を深めている。法人の言語聴覚士から助言をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、施設見学や実態調査からご本人とお話する機会を作り、困っていること、不安なこと、要望を伺っています。また、日々の関わりのなかでのご本人の声・想いに寄り添えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまでの間、施設見学や実態調査からご家族ともお話する機会を多く作り、困っていること、不安なこと、要望を伺っています。グループホームの特色や事業所独自の取り組み等を伝えながら、ご家族・ご利用者のニーズに応えられるよう対話を重ね、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前任のケアマネジャーからの情報や、前施設からの情報、ご本人、ご家族からの要望をもとに必要なケアを見極め、ニーズに合わせた提案を行うよう努めています。また法人内の看護部長と連携し医療面での必要なケアについても理解を深めた上での支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが一方的に行うのではなく、ご本人の得意なこと、出来る事(洗濯物干し、食器洗い、食器拭き、掃除機かけ等)を行っていただきながら共に生活していくうえでの良好な関係作りに取り組んでいます。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ本位となってしまわぬようにスタッフだけの話し合いで解決しようとせず、常にご家族と情報を共有し、相談しながらご本人を支えていくよう努めています。面会時にはご本人の様子を伝えたり、またご家族の想いやお話を伺い、関係性を構築しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止へ充分に配慮しながら、可能な範囲で通いなれた美容院や病院への外出やお墓参りの支援、数時間自宅へ帰る機会を作る等、ご本人・ご家族の想いを実現できるように努めています。コロナ禍により現在は、抗原検査で陰性を確認していただき面会を実施したり、Zoom(テレビ電話)面会や窓越し面会を実施しています。	来訪できない家族と電話で話せるよう支援した。孫が面会に来ることもある。入居前から通っていた教室へ知人と行く入居者がいた。花見や紅葉見物、買い物する所は、入居者にとって馴染みの場所を選んでいく。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍の現在はユニット間の交流を制限しており、エアロゾルの発生が予測される活動の制限を行っています。ユニット内では、入居者同士の関係性を見極め、食席の配置や散歩、ドライブ等外出時に入居者同士の関係性を考慮した上での声掛けを行うよう配慮しています。リスクを優先しすぎ、あまり過度な介入とならぬよう工夫して行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後の生活でもなるべく困る事のないように適宜様子を伺い、アドバイスできることやお手伝いできる部分があればフォローを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に合わせて、タイムテーブルを随時見直し、修正を行っています。入浴回数や入浴する時間帯等、その他入居者毎の希望に対し、対応できる体制作りについてユニットスタッフで上法共有し、適宜検討を行っています。また、ご利用者のお好きな食事など、普段の献立やイベント食に反映しています。	家族に会いたい気持ちを聞き、面会に繋げたり、「寿司が食べたい」の要望をメニューに入れるなど、その人の思いを支援をしている。「歩けなくなったら」などの不安を把握し、下肢筋力維持を介護計画に入れた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の対話、実態調査時に、情報収集を行っています。他、ご家族の協力を得て、趣味・好きな服装などバックグラウンドアセスメント用紙に記入いただき把握に努めています。他施設を利用されていた方には担当ケアマネージャーとの連携を図り、各種書式・サマリーやフェスシートから生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタル測定から健康状態の把握、普段の関わりの中で表情や言動を観察し、随時情報共有を行い現状の把握に努めています。また、医療職との連携も図っています。ご本人の好きなこと、得意なことを発揮をしていただくことを大切にしながら、共に過ごす生活場面の中で、状態観察に努めています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段の関わりから聞き取ったご本人からの要望やご家族の要望を踏まえた上で、ケア意見書を通してユニットスタッフが関わりやケアから感じ取った情報をチームで共有し、ご本人の能力・障がいに合わせて必要な介護や配慮について検討しています。	「出来ることは自分で」の本人意向に対し、「介入が過度にならぬよう」との方針を盛り込んだ。食事時のむせ込みに気付き、看護師や栄養士に相談するなど、状態変化に合わせて随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを実施した際のご本人の様子や言動を記載しています。チームで情報を共有し、ご本人の現状を正しく理解するため、ケアの工夫や配慮の見直しを行うために、不安や心配のお話があった際の詳細も記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の声、ご家族の声に常に気を配り、要望が聞かれれば調整などを行えるだけ早く思いに応えるよう努めています。ユニット内だけでなく事業所全体で協力していく体制づくりを行っています。(現在はコロナ禍のためユニット間での交流は控えています)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会へ加入しています。コロナウイルス感染防止対策の為、現在は実施できていないが、運営推進会議で町内会長や地域包括支援センター職員より意見をいただいています。近隣の保育園との交流(敬老会・クリスマス会)もコロナ禍以前は行っていました。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れたかかりつけ医との関係性を大切にしながら継続して診ていただけるよう努めています。受診については原則ご家族による対応をお願いしていますが、ご本人、ご家族の要望や状況に合わせてスタッフの付き添いによる支援も行っています。また、受診後は必ずご家族に確認したり、スタッフが同行した際は受診内容について、受診時報告書の作成し報告を行っています。	殆どの入居者が法人医療からの移行で継続しており、オンライン受診も可能である。日常的な健康管理は、看護職員が行い、点滴等の処置については訪問看護師が行っている。眼科等の専門医受診の支援もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が勤務しており、医療的な処置に関して情報共有を行い、医療面でのフォロー体制の構築しております。夜間は法人内医療介護部長へ報連相を行い、急変時等、対応について指示を受けています。有症状者については毎日、法人内の報告フォーマットを通して管理行い、早期対応から集団感染の発生予防に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェイスシートの提出やサマリーの活用など所定のフォーマットを通して情報共有に努めています。必要な場合はケアプランの提出なども行っています。個人情報保護の視点やコロナ禍ということで院内の面会制限状況に合わせて、ご家族との情報共有からタイムリーなケアマネジメントを行えるよう努めています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時に重度化した場合についての説明を行い、ご本人、ご家族の希望を伺っています。また、終末期が近づいてきた場合も再度、ご家族への説明、意向を伺っています。ACPを通して入居されてからもご本人・ご家族に対して終末期の希望について随時お伺いし、ご本人の想いを一番に考えた終末期を迎えることが出来るよう話し合いを行っています。	「看取りに関する指針」を文書化し、本人の意思を尊重しながら統合的な援助を行うことを表している。終末期に際しては、職員間で「どうして欲しいか」などを話し合い、日常の延長を意識している。「メモリアルカンファレンス」を行い、今後に向けた情報共有をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、急変・事故発生時の対応についての研修を行い、実践力を養っており、実際に発生した場合には、対応した内容の振り返りを行うように努めています。また、昼夜共に管理者が事業所に不在であっても24時間体制で管理者・エリアマネージャーや法人内医療介護部長へ対応について電話相談や報告を行える体制を整えています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成しており、避難訓練や緊急連絡網の確認など行っています。備蓄品・避難経路の情報共有に努め、消防への連絡場所にはその時に慌てることのないよう、伝え方のマニュアルを掲示しています。コロナ禍ということで、ユニット間交流制限等もあり地域との協力体制は築けておりませんが、状況が落ち着き次第、改善に取り組んでいきます。	地震による火災発生と通常火災について、避難訓練を行った。運営推進会議の報告で「地域住民の協力が必要」と述べている。職員から「2階から降ろすのに不安」との声があった。夜間想定訓練は来月に予定している。	訓練の実施後には実践記録と同様に、反省についても記録に残し、次回の訓練に役立てていただきたい。夜間想定訓練を予定通り実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の自尊心や人格を尊重し、常に言葉遣いや関わり方に配慮しながら、尊厳をもった関わりや声掛けを行っています。スタッフ間で申し送る際には名前で呼ばない、大きな声で話さないなどの配慮をしています。居室で過ごされている時やトイレ使用時にドアを開けたままにしない、知り得た入居者の情報を安易に他の方へ口外しない等、プライバシー保護に努めています。	入居者の好きな事や出来る事を把握し、得意な裁縫を活かしてボタン付けをしてもらうなど、「本人本位」「思いに寄り添う」ことを大事にしている。断定した誘い方ではなく「～はどうでしょう」など、声掛けにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食の好み、入浴回数、入浴時間等、ご利用者から希望が聞かれた際はその都度対応しています。複数のスタッフからご利用者への声掛けをこまめに行うことで信頼関係の構築に努め、想いを聴くことが出来るよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの起床時間・就寝時間、食べ物の好み、余暇時間の過ごし方、その方の習慣などを記録や対話の中から汲み取り、ご本人のペース、希望に沿った支援を心がけています。ルーティンをこなすのではなく日々、その時の状況に合わせて対応しています。現在はコロナ禍のため外出や受診等で一部制限があり、制限がかかった際はご本人に丁寧に説明し納得していただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選べる方には実際に選んでもらえ、難しい方にはいくつか候補を挙げ、声掛けしながら自ら選んでもらえるよう努めています。女性の方へは化粧の手伝いや男性の方には髭剃り等、男性女性に限らず整容の支援に努めています。衣替えをスタッフとご本人と一緒にし、季節に合わせた衣類を収納しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みを伺いながら献立を作成しています。食事の準備、片付けも入居者の皆様がそれぞれ出来ること・得意なことをお手伝いしていただいています。作ることが難しいメニューや具体的な店名が聞かれた際はそのお店から出前を取ったり、外食も行っています。	入居者の要望には、ハンバーグや刺身などがある。敬老会に仕出しを取ったり、栗御飯や果物で季節を感じたり、芋煮会では下拵えと一緒にするなど楽しんでいる。糖分や水分制限など医師の指示に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者が抱える疾患や体格に合わせて味や提供量の調整(減塩等)、食事形態の変更(とろみや刻み)を行っています。水分についてもご本人の抱える病気に配慮しながら好みの味や形状を変えて提供を行い、十分な摂取量を確保できるよう努めています。栄養補助食品の積極的な活用も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で行える方はお声掛けを行い、介助が必要な方は声掛けと見守りを行い、必要時、介助を行っています。義歯の方についても支援が必要な場合は声掛けし、洗浄を行っています。必要な方には週に1度訪問歯科を利用し、口腔ケア・義歯調整も行っていきます。(現在、コロナ禍のため訪問歯科は不定期)		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にリハビリパンツやオムツの着用とはせず、ご本人の能力や、できることを考慮しスタッフ間で排泄パターンや習慣についての情報共有を行い、出来る限りトイレで排泄を行えるよう支援しています。	誘導が必要な人への声掛けは、食事の前後に行っている。座位が可能な人は、トイレの利用を優先することを大事にしている。「失敗＝オムツではない」ことを職員間で共有し、現在オムツ使用の人はいない。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を提供したり、食事のメニューにヨーグルト、食物繊維を取り入れ、毎日乳製品を摂取していただくことを心がけています。また、午前と午後に軽体操を行い、便秘予防に努めています。	
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	同性介助を基本としながら、1人1人の希望に沿った(入浴の間隔・入浴時間)入浴サービスを提供しています。気分が乗らない時や、入浴前の血圧測定にて高かった際には、シャワー浴への変更の提案や時間をおいてのお声がけをしたり、無理強いせずに入浴日を柔軟に変更しています。	入浴前に着替えの服を一緒に用意している。入浴時には皮膚の観察を行い、疾病や虐待の気付きを意識するようにしている。プライバシーに配慮し、浴室前で待機するなどその人に合わせた支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた就寝の声掛けを行っています。眠れない方がいればホールや居室に個別の関わりを図り、スタッフと一緒に眠くなるまで過ごすようにしています。スタッフ本位のケアとならぬよう心掛けています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などスタッフ間で情報共有し、服薬セット、内服時のダブルチェックを毎日欠かさず実施し、事故防止に努めています。服薬の変更があった際は申し送りに記入し、情報を共有し、ご利用者の状態の変化の確認をスタッフ全員で行っています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好きなこと、得意なことを踏まえて、食事の支度や洗濯物たたみ、食器洗い、食器拭き、新聞たたみ、設えづくりを行っていただいています。また、棒体操・軽体操を行っています。ご本人がこれまで行っていた趣味(散歩、裁縫、塗り絵等)も個々に合わせて行っていただいています。コロナ禍以前は他ユニットのご利用者とかかるた取りや歌のレク等も実施していました。	
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、外出の支援は行いませんが、屋外の散歩や施設敷地内のプランターへの水やり、ドライブなどは少人数、マスク着用、窓を開けるなど感染防止に配慮しながら実施しています。コロナ禍が落ち着き次第、実施の機会を充足していきたいと考えています。	天気の良い日は、下肢筋力維持になるよう敷地内を歩いている。ドライブイベントは、花見や紅葉の見学であったり、欲しいものがあれば買い物に行くなどの外出になっている。園芸の好きな人に合わせて、プランターに花の植栽をするなど屋外活動をしている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さをスタッフが理解し、一人ひとりの希望や能力に応じてお金を所持していただき、自由に使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方がおり、自由に使用していただいている。ご利用者より電話がしたい、手紙を出したいと希望があった際はスタッフが都度仲介役を担い、ご本人が大切にしている縁が途切れる事のないよう交流支援を行っています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に一緒に映った写真を飾ったり、皆で作成した作品や季節に合わせた設えを飾る等、生活感や季節感を取り入れるようにしています。温度計、CO2モニターを設置し、エアコン、サーキュレーターを活用した室温の調整と空気の循環を行っています。各居室にも温度計を設置しています。ホーム内の設えは入居者とスタッフが一緒に作成し、掲示しています。また、有事に備えゾーニングのテープを床に貼り分けしていますが、気にされる方には都度説明を行っています。	ホールの壁には、夏祭りの焼きそば作りの様子を写真にして掲示したり、皆で切り貼りしたり折り紙などで作った落ち葉の作品を飾っている。十五夜には、窓際にススキや秋の果物を供えた。廊下との寒暖差や換気に留意して、居室の戸に隙間を設けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが居心地よく過ごしていただけるよう、気の合った方と同じ食席で過ごしていただいたり、踊り場やホールにソファを置き、お一人や少人数で自由に過ごす事が出来る空間を整えています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用されていたもの、趣味で飾っていたもの、好きな物を部屋に飾ることで居心地の良い居室空間となるよう努めています。また、ご家族にご本人が使用されていたものや服等を面会時等に持参していただいています。また、食事の際はご自宅で使用されていた箸、お椀、湯呑(コップ)を使用できるよう提供していただいています。	各居室には、エアコンやベッド、クローゼット、洗面台、ナースコールが備えてある。家族の写真や新聞を飾ったり、新聞を読む、自分で掃除をするなど、本人なりの部屋作りをしている。転倒予防にセンサーの利用がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前や、トイレにそれぞれプレートを配置し、入居者ご自身の居室をわかるように工夫しています。その方が出来ることはご自身で出来るように支援することを心がけています。移動についても安易に車椅子の使用は勧めず、ご本人の日々の状況に合わせて、側での付き添いや手引き等の支援を行い、安全な移動に努めています。		